

平成30年 玉野市教育委員会 会議録

I 期 日： 平成30年7月24日（火） 於：第1委員会室

II 開会時間： 9時00分

閉会時間： 11時15分（中断：10時～10時40分）

III 出席委員： 教育長 石川 雅史 教育長職務代理者 大川 佳郎
委 員 野田 洋二 委 員 近藤 寿子
委 員 妹尾 恵美

IV 欠席委員： ー

V 出席者氏名： 学校教育課長 住田 義広 学校教育課主幹 栗本 明德
玉野市教科書選定委員会 会長 三宅 英次
（書 記） 山内 祐樹

VI 会議内容：

○ 議 事：議案第30号 平成31年度使用中学校教科用図書採択の決定について

1 開会

2 経過報告

（事務局）

資料1～4により採択手順・観点等について説明。

3 答申

（選定委員会会長）答申を行う。

（選定委員会会長）選定委員会答申に引き続き、答申内容について説明。

（教育長）

個別の協議は後ほど行うが、選定委員会の内容について質問はあるか。

（委員）

教科書のサイズについて意見はあったか。

- (選定委員会会長) A4の教科書(2社)は、大きい割に字が小さく読みにくく、中学生に向いていないのではとの意見があった。
- (委員) 私が授業をするなら学研を使いたいと思った。各社とも題材の最後に「考えてみよう」といったコーナーがあるが、答えがほぼ決まっているようなものが多い中で、学研は一行しかない。答が1つにしかならないとか、発問の工夫をしやすいとか、そのような議論はあったか。
- また、東京書籍は生徒作文が多いと感じた。
- (選定委員会会長) 「考えてみよう」の部分への意見は出なかったが、授業の流れが決まっているものはやり難い、教師に工夫の余地があるものが良いとの意見はあった。
- (事務局) 研究委員会では、学研の「考えてみよう」については、発問が1つでオープンエンドな問いなので、收拾がつかなくなるのではといった意見があった。また、他社と同じ題材であっても、あえて結末を明らかにせず、生徒に考えさせる作りが逆に扱いづらいという意見もあった。
- (事務局) 生徒作文について、生徒が身近に感じることができるという研究委員からの意見があった。
- (委員) 道徳ノートについての評価はどうか。私からは使いやすそうに見えるが。
- (選定委員会会長) ノートには一長一短あるので、有無によって良し悪しは判断できないという結論だ。ノートに沿って進めなくてはならない堅苦しさを指摘する声がある一方で、若い先生は授業をやりやすいのではないかという意見があった。
- (事務局) 玉野市が目指すところは、子どもたちが考え議論する道徳の授業だ。現在は教員自作のワークシートを使って進めているが、教科書付属のノートよりも自作のワークシートの方が目指す授業になりやすいとの意見があった。
- (委員) 一般の方の意見はどう反映されるか。
- (選定委員会会長) 教科書の中身を重視しようという考えだ。現役政治家の名前が出ているから使う、使わないということではない。意見は参考にしつつ、多角的に見て選定した。
- (委員) 道徳ノートがあれば直接書き込めるが、その点の議論はあったか。
- (選定委員会会長) 書き込むことについての議論はなかった。
- ワークシートについての議論があったが、同量のノートを生徒が書くには非常に時間がかかる。ワークシートであれば適切に進められる。

(選定委員会会長退席)

4 協議

- (事務局) この後の会の流れについて説明。
- (事務局) 報告書、会議録により選定委員会での協議概要を説明。
- (教育長) まず、委員の意見や感想を聞きたい。
- (委員) 非常に活発な議論がなされたようだ。報告書を踏まえて再度各教科書に目を通したが、報告書の内容に納得できるところが多かった。
- (委員) 丁寧に議論されている。
- (委員) 小学校と違って、中学生がこれを読んでどう感じるか、評価が難しいと感じた。
- (委員) 研究委員が教科書をしっかり見て考えられている。選定委員会でも結果を踏襲しているのは非常によい。細かなところまで見て配慮していることが伝わってくる。
- (教育長) 玉野市の方針として、多様な価値観に触れ、多面的に物事を見ることができ、考え議論する場面が生まれるように。また先生方も工夫して効果的な授業ができるように、というのが大きな論点かと思う。
- (委員) 先程来話題になっている道徳ノートは、「授業を進めるにあたって必ずしも必要ではない」というのが研究委員会からの流れだと思う。A委員からは意見があったが、他の委員はどうか。
- (委員) 各校各クラスが持つ課題を解決するためにワークシートを活用しているとのことだったので、敢えてノートの有無で評価する必要はないのではないか。
- (委員) 教員用にだけノートがあって、ワークシートづくりの参考にといいことであれば、日文などは良いことを書いている。ただ、生徒は書くのに相当時間がかかりそうだ。
- (教育長) これまで本市の道徳の授業で行われているように、ノートよりも生徒に応じてワークシートを作成して授業を行うスタイルで良いか。
- (委員) 了承する。
- (教育長) もう一点は教材の分量である。小学校の教科書でも同様の議論があった。道徳は読解力を養うことが目的ではなく、その後の授業につなげていかなければならない。
- そういった観点から、光村、あかつきと学校図書の一部は文章が長く適さないとの報告があったが、実際に読んでみての感想はどうか。

- (委員) 文章を読むのが苦手な子もいるので、考える前に疲れてしまうのかなと思う。議論するのであれば、読みやすく長くない方がよい。
- (教育長) この点については、しっかり考え議論する時間が持てるようにという観点で進めたい。
- (教育長) 選定委員会は東京書籍が「使用するのにふさわしい」としているが、東京書籍の教科書、また比較する教科書があれば意見をいただきたい。
- (委員) 私は2年生の教科書を読んだとき、東京書籍は、生徒作文が多いと感じた。
- (教育長) 選定委員会でもあったように、多様な意見から議論ができるようにという東京書籍の工夫の部分だろう。色々な意見がちりばめられているのが一つの特徴と思うが、その点どう感じるか。
- (委員) 他社と同じ題材を使っている部分で比較すると、イラストが多く、文字ばかりが続いている感じでもない。また議論させるところでも、少しだけヒントを与えて生徒自身に考えさせる構成が多く、良いと思う。ただ、付録の「心情円」はどのように使うのか。
- (教育長) 「心情円」や「ホワイトボード」について、研究委員の意見は。
- (事務局) 委員からは、心情円などは自分の気持ちを見せることができる。いずれも活用したい、良いものが付いているという評価だ。
- (委員) いじめや情報モラルなど日常茶飯事に起きていることを題材としていて、教員もワークシートづくりに工夫の余地があるのではないか。
- (委員) 他社に比べて問いがシンプルで、考えを言いやすいのではないかと思う。
- (教育長) 採択の決め手となるのは、玉野市がこれまでどういう授業を積み上げていて、これからどういう授業をしたいかで、どの教科書を使うかを考えるべきものだ。
- 「研究及び検討の方針」も、どのような授業をしたいかが見えれば良いと思う。事務局の説明では多様な価値観や多面的に考え議論することを大切にしているとのことであったので、このあたりが重要な「選定理由」となるものだと考える。
- (委員) 「いじめ」や「命」を考える教材を連続で行えるような構成・配列をしており、本市が推進している「キャリア教育」や「国際理解」などの現代的な課題に関わる教材が充実している東京書籍が良いと考える。
- (委員) 本市の道徳授業の学習指導形態や流れから考えるとワークシー

トを活用したり、東京書籍に付いている心情円やグループ学習でホワイトボードも使用したりすることで、多くの生徒の気持ちや考えに触れながら自分のこととして考え、今後更に多面的に考え議論する道徳授業が展開されることが期待される。

(教育長) 本会議の協議した内容と研究委員会や選定委員会での評価も考慮して、東京書籍での採択とすることでどうか。

(委員) 了承する。

(教育長) 選定理由は、委員の皆さんの意見を踏まえ、「いじめや情報モラルなど現代的な課題に関わる教材が充実しており、具体的な課題や多様な道徳的価値に触れながら、自分のこととして考えることができるような様々な構成上の工夫がある。また、全体を通して、生徒が多様な考え方や他の生徒の感じ方に接する中で、よりよく生きていくための考えを深める学習となるよう、問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習に取り組む内容が示されているとともに、道徳的価値について深く考えられるような創意工夫が随所になされている」で良いか。

(委員) 了承する。

(教育長) それでは、東京書籍を採択する。なお、留意点としては、先生方が生徒の状況を見ながら工夫していかないといけない教科書である一方で、若い先生も増えていることから、ワークシートづくりなどを学校全体で研究及び協議し、効果的な作成や活用を求める。また、学校教育課の指導主事中心に道徳教育に関して学校や教員のサポートしていただきたいと思う。

(教育長) 以上で、平成31年度使用中学校教科用図書採択を終了する。